琉球大学学術リポジトリ

戦後沖縄の近代建築における地域性の表出

メタデータ	言語: 出版者: 小倉暢之 公開日: 2009-06-22 キーワード (Ja): 近代建築, 沖縄, 地域性, コンクリート造建築, 国際様式, 発展途上域, 米国, コンクリート建築, コンクリート住宅, アイデンティティ, 地域主義 キーワード (En): Modern architecture, Regional characteristics, Concrete housing, Okinawa, U.S.A., Concrete building 作成者: 小倉, 暢之, Ogura, Nobuyuki メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/10987

戦後沖縄の近代建築における地域性の表出

課題番号 15604013

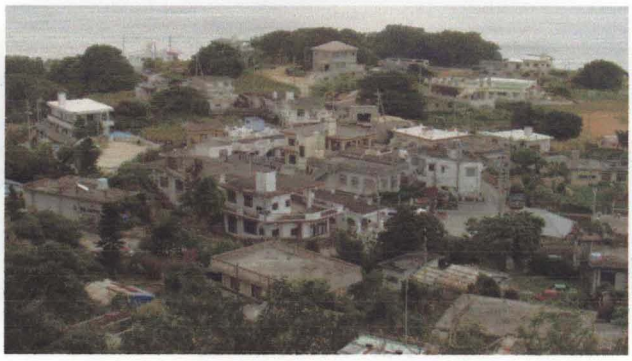
平成 15 年度ー平成 17 年度
科学研究費補助金 基盤研究(C)(2)

研究成果報告書

平成 18 年 3 月

研究代表者：小倉暢之
琉球大学・工学部・助教授

琉球大学附属図書館
0020064003338



沖縄本島南部の農村集落

はしがき

沖縄は本土復帰から既に３４年が経とうとしている。そして、終戦からは６１年目を数える。この間に沖縄の建築事情は大きく様変わりし、その内容は本土のそれとは異質なものとなっている。その違いの主な要因についてみると、亜熱帯という気候風土の違いは大きい。しかし、比較的似通った近県の鹿児島や、その中でも沖縄に近い奄美諸島の建築と比べても、そこには大きな相違点がある。すなわち、コンクリート建築の全域にわたる普及状況である。戦後 27 年間の米国統治の間に今日のコンクリート建築普及の基盤は既に形成され、住宅から公共建築に至る多くの建築がコンクリートによって建設された。そして、こうした大量の建築的現象が戦後沖縄の風景を大きく形成している。

今日、沖縄の地域性、もしくは沖縄らしさといった言葉をよく耳にするようになって久しい。それは建築のみならず、文芸活動全般、さらには政治経済の分野においても頻繁に用いられている。そこに見られる多くの議論には、如何に表現をなし得るのかという方法論に関心が集中するあまり、その背景に対する関心が薄れがちである。特に今日に建築界におけるジャーナリズムを中心とする議論の中にはこうした傾向が窺える。しかし、沖縄らしさの議論をさらに展開する上では、方法論の他にそれらの背景をも包含する新たなアプローチを必要としている。

本研究タイトルを「地域性の表現」でなく「地域性の表出」とした理由はここにある。すなわち、建築生産は技術、材料、経済、政策等、多様な要素の総合において成り立っているのであり、設計者の意図に関わらず、生産環境における各要素の必然的表れとしての建築を捉えようとするものである。「表現」は作者の意図が中心的テーマとなり、一方、「表出」は作者の意図を含めた諸要素の現象が中心的テーマとなる。本研究は、建築における「沖縄らしさ」に新たな視点を見いだそうと試みるものである。

*

本研究を進めるにあたり、取り分け、沖縄県立博物館津波古聰氏、我那覇建築設計事務所我那覇昇氏、沖縄振興開発金融公庫花城守男氏、具志堅建築設計

事務所（故）具志堅博氏、同事務所具志堅勇氏の各氏には貴重な資料提供を頂いた。また、琉球大学工学部小倉研究室の元大学院生西憲太郎氏、呉屋さゆり氏、上原桃子氏は、修士論文で本論関連テーマを研究し、本論のそれぞれ１章、２章、３章の作成に多大な貢献をして頂いた。さらに本研究には、沖縄県立公文書館のスタッフの方々をはじめ、多くの関係各位の多大なご協力を頂いた。ここに記して感謝申し上げたい。

【研究組織】

研究代表者：　小倉暢之（琉球大学工学部助教授）

【研究経費】

平成 15 年度：　800 千円

平成 16 年度：　500 千円

平成 17 年度：　500 千円

　　計　　1,800 千円

【研究発表】

Ⅰ　学会誌等

①Nobuyuki OGURA:「Concrete Public Buildings and Their Planning Methods in Postwar Okinawa」,5th International Symposium on Architectural Interchanges in Asia, pp.284-287, 2004

②Nobuyuki OGURA:「The Rapid Spread of Modern Buildings and the Simplification of Planning Method in Postwar Okinawa」, The Okinawan Journal of American Studies, no.1, pp.46-51, 2004

③小倉暢之：「沖縄におけるコンクリートブロック品質保全法の成立過程」，日本建築学会九州支部研究報告，第 43 号，pp.593-596（2004-3）

④呉屋さゆり、小倉暢之：「沖縄県におけるコンクリート住宅の展開に関する研究」，日本建築学会九州支部研究報告，第 44 号，pp.761-764（2005-3）

⑤上原桃子、小倉暢之：「琉球政府時代の公共建築における地域性の表現に関する研究」，日本建築学会九州支部研究報告，第 44 号，pp.781-784（2005-3）

⑥上原桃子、小倉暢之：「琉球政府立博物館の意匠に関する研究」，日本建築学会大会学術講演梗概集，F-2，pp.353-354（2005-9）

Ⅱ　講演発表

①Nobuyuki OGURA: 「The Rapid Spread of Modern Buildings and the Simplification of Planning Method in Postwar Okinawa」, Ryudai-UC Joint Symposium: Cross-Cultural Contact between the U.S. and Okinawa, University of California Davis, U.S.A., 2003-11

②小倉暢之：「琉球政府立博物館の意匠について」，第 27 回琉球大学アメリカ研究大会，琉球大学、沖縄（2005-11）

＊＊＊

目　次

はしがき …… i

序 …… 1

1章　コンクリート建築の普及と設計技術 …… 3
1−1　はじめに …… 3
1−2　コンクリート建築導入前の背景 …… 4
1−3　先進技術の導入 …… 5
1−4　コンクリート建築の普及 …… 7
1−5　建築教育 …… 8
1−6　建築制度と業務 …… 9
1−7　公共建築の役割 …… 11
1−8　学校建築 …… 11
1−9　郵便局舎 …… 15
1−10　一般建築 …… 17
1−11　小結 …… 21

2章　コンクリート住宅の展開 …… 23
2−1　はじめに …… 23
2−2　コンクリート住宅普及の経緯 …… 23
2−2−1　応急住宅 …… 24
2−2−2　沖縄住宅公社 …… 24
2−2−3　外人住宅 …… 25
2−2−4　住宅のコンクリート化 …… 26
2−3　住宅融資制度 …… 29
2−3−1　復金・開金 …… 29
2−3−2　沖縄振興開発金融公庫 …… 30

2－4　沖縄県住宅供給公社の住宅 …… 32
2－4－1　沖縄県住宅供給公社 …… 32
2－4－2　分譲住宅供給の変遷 …… 33
2－5　計画内容の展開 …… 36
2－5－1　矩計図（断面詳細図） …… 36
2－5－2　仕上げ材 …… 43
2－5－3　住宅の電化と設備 …… 44
2－5－4　間取り …… 45
2－6　小結 …… 48

3章　公共建築における地域性の表現 …… 49
3－1　はじめに …… 49
3－2　琉球政府立博物館 …… 49
3－2－1　統治と文化政策 …… 49
3－2－2　文化財保護 …… 52
3－2－3　博物館の設立 …… 53
3－2－4　新博物館構想 …… 55
3－2－5　設計競技 …… 59
3－2－6　当選案の修正 …… 63
3－2－7　最終案の意匠 …… 68
3－2－8　博物館設計競技の意義 …… 69
3－3　那覇市公会堂 …… 72
3－3－1　設計競技の背景 …… 72
3－3－2　応募案 …… 74
3－3－3　当選案の評価 …… 78
3－3－4　設計競技の意義 …… 78
3－4　小結 …… 79

結び …… 81

参考文献 …… 83

序

１９４５年以降の沖縄は，本土復帰迄の約３０年間にわたる異文化接触によって近代建築の分野においても特異な展開を遂げた．米国から沖縄にもたらされた近代建築は，元々国際様式に代表される世界共通の表現形式であったが，伝統文化，気候風土，生産技術レベル等，異なる建築的背景の中で，地元の近代建築は多様な要素が重層的に表出し，独特な建築文化を形成している．本研究の目的は，戦後沖縄に建設された公共建築から一般住宅にわたる各種建築における地域性を表出する要素の多重性に着目する事によって近代建築の非先進地域における展開の在り方を解明することにある．

本研究では近代建築における地域性を表出する要素の項目を以下の様に設定し，これら４つの項目の重層性を総合的に分析することによって戦後沖縄の建築の特色を理解する．

1. 近代意匠：　先進地域からもたらされるスタイルとしての意匠
2. 伝統意匠：　地域に固有の自然及び人工的造形の意匠
3. 気候風土：　設計における与条件としての気候環境及び生活慣習
4. 生産基盤：　制約を伴う設計・建設技術水準と建築素材の選択

これまでの非先進地域における近代建築研究では，主に地域の伝統文化との関わりから伝統的意匠形態を中心とするものが多いが，建築意匠の総体的表現を決定付ける必然性の解明，すなわち気候風土や生産技術的制約等の要素を取り入れた総合的アプローチに立つ研究は極めて少ない．それには，これまでの近代建築意匠の捉え方が西洋のハイアートとしての建築観に強く影響され，生産基盤等との関りが軽視されている事によるものと思われる．しかし，非先進地域における近代建築の展開には必然的に建築生産体制のハンディキャップを伴い，それ故ゆえの新たな創造力を必要とする点も重要な視点となる．したがって本研究の特色は，建築表現における諸要素の複合性を建築の用途と対応させて分析する方法論にある．

欧米と異なる文化背景にある地域，取り分け非先進地域における近代建築の導入においては，デザインの新奇さと先進技術の総合による建築表現が常に進歩の象徴として肯定的に受容される素地が共通して見られる．しかし，その反面，地域の文化的アイデンティティへの強い志向も存在し．それらは多様な表現手法によって試みられている．モダニティと地域性の関係という普遍的な問

題は，単なる意匠形態の問題として捉えるのではなく，表現の基礎となる素材や技術といった生産基盤を含めた総体的視点に立つことにより，より広汎な視野を得る事ができるのであり，東南アジアをはじめとする非西洋域における今後の建築のローカルな展開を理解する上でも有用な視点を提示するものと期待される．

本論は、地域性を表出する要素の多重性を考察する上で有効な三つのテーマを設け、各章でそれぞれのテーマを論じている。

１章「コンクリート建築の普及と設計技術」では、沖縄のコンクリート建築が急速に普及し、今日の建築生産の基盤を形成した本土復帰以前の状況に注目し、米国式近代建築生産方式の導入に伴う地元建築のコンクリート化の過程を辿った。その過程においては大量な建築生産において設計技術の標準化と単純化が盛んに行われ、先進技術が地元の建築生産事情へ適応していった状況を公共建築と民間建築の関連性に言及しながら考察している。

２章「コンクリート住宅の展開」では、今日の沖縄コンクリート住宅の標準的造りを表している沖縄県住宅供給公社の戸建て住宅に着目し、コンクリート住宅の約半世紀に及ぶ地元への定着過程から，数世代にわたる居住体験によってコンクリート住宅がどのように進化し，いかなる部分が改変され，地域の事情に適応していったのかについて調査分析した．ここでは、コンクリート住宅の設計内容は，気候風土への対応，及び生活様式の変化に対して試行錯誤を経て今日の姿が形成されている事を明らかにしている。

３章「公共建築における地域性の表現」では、沖縄の本土復帰前に起こった所謂「沖縄らしさ」への建築的関心の盛り上がりの基礎を形成した琉球政府立博物館と那覇市公会堂の計画案をめぐる問題について焦点をあて，前者については、計画案の変遷過程では米軍統治下における軍行政当局と地元行政当局及び設計担当者との三者の主張の相違の中で最終案に至った経緯を論じている．そして、後者では、前者の経緯を基に地元行政当局と建築界が一体となって沖縄に相応しい近代建築の在り方と新しい表現手法を模索した内容を明らかにしている。

＊＊＊